



INFORMATION-TECHNOLOGY PROMOTION AGENCY, JAPAN

**(独) 情報処理推進機構 IT人材育成本部**

# **IT人材市場動向調査**

## **調査報告概要版 No.3**

**【学生向けWEBアンケート調査結果より】**

**【社会人向けWEBアンケート調査結果より】**

**平成21年3月**

# はじめに

- 本概要版は、「IT人材白書2009」出版に先立ち、2008年度に実施した「IT人材市場動向調査」の調査結果の一部を紹介する目的で公開しています。
- 各調査および調査全体に対する総括や施策方針、分析結果詳細につきましては、「IT人材白書2009」をご覧ください。

# IT人材市場動向調査の背景・目的

わが国IT産業においては、恒常的なIT人材不足と言われており、その対策として本来の人材不足の原因はどこにあるかの追及が必要である。したがって、人材育成政策の立案にあたってはIT人材の現状の把握と共に、“今後不足が予想される人材”の把握が必要とされるが、このようなIT人材の将来的な市場動向を予測するためには、その裏づけとなる環境要因の把握・分析が不可欠である。

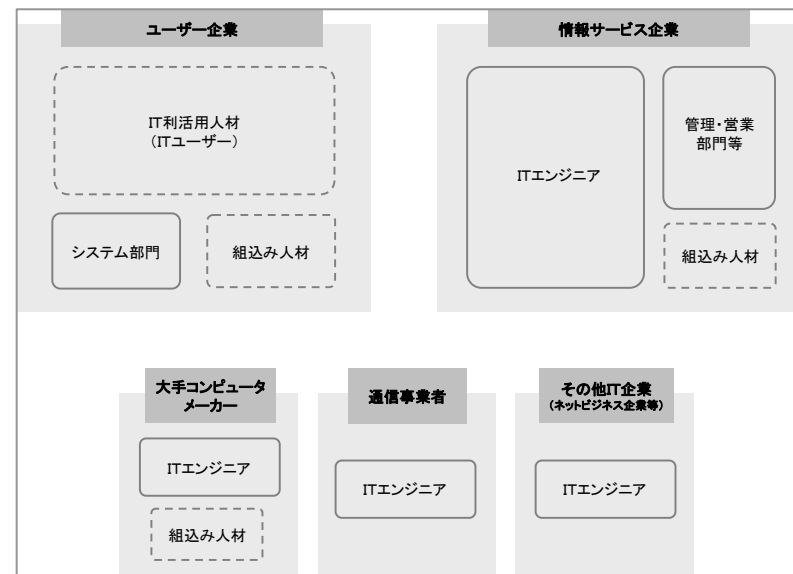
しかし、IT人材に関する調査・統計は数多いが、IT人材は多様な職種として産業横断的に広く存在するため、単一の統計では、その全容を正確に把握することは難しく、従来の調査・統計のみでは、その十分な把握は困難な現状がある。

このような経緯をふまえ、本調査では、IT人材動向及びIT人材の市場動向を変動させる要因(企業、大学及び行政の施策、景況感、他産業の状況等)に関する調査分析を実施し、その調査分析結果に基づき、将来のIT人材市場動向の分析およびIT人材市場に関する問題(特に、IT人材の質の不足)の追究を行うことにより、今後のIT人材育成施策を作成するための基礎資料となる情報を作成する。

IT人材市場動向調査は、2007年度に予備調査として実施し、2008年度から本格的な調査として位置づけ実施した。

# IT人材市場動向調査の特徴

- ① 「IT提供側」(IT企業)と「IT利用側」(ユーザー企業)の調査を同時に実施することで、わが国のIT人材の規模などに関する総合的な把握を目指している。
- ② 「IT提供側」を可能な限り広く定義し、従来の中心的な調査対象であった情報サービス・ソフトウェア企業以外にも、大手電機メーカーやネットビジネス企業など、従来の調査に含まれていなかった企業も調査の対象としている。
- ③ 個人ではなく企業を対象とする調査で、ITスキル標準(ITSS)、情報システムユーザースキル標準(UISS)を用いた職種・レベル別人材数を把握している。
- ④ IT企業からユーザー企業、大学の情報系学科まで、従来の調査では網羅しきれない幅広い対象に対して、同時に調査を実施しているため、調査結果の複合的な分析が可能である。
- ⑤ その年度のトピックス調査としてIT技術者個人や学生に対する調査も実施しており、情報サービス産業の就業人気など、企業や大学に対する調査だけでは把握が難しい動向・課題などをとらえている。



わが国のIT人材のイメージ

# 調査一覧

前述のような背景と予備調査を受けて、2008年度は以下の8調査を行った。  
本概要版－No.3－の対象は、全8調査のうち、5及び6である。

1. 【IT企業向け】 IT人材動向調査

2. 【ユーザー企業向け】 IT人材動向調査

No.1

3. 【教育機関向け】 情報系学生・教育動向調査

4. 【情報系学科卒業生向け】 情報専門学科カリキュラム評価

No.2

5. 【学生】 情報サービス産業のイメージ分析調査

6. 【社会人向け】 他産業との就業満足度比較調査

No.3

7. 【IT企業向け】 オフショア動向調査

8. 【ユーザー企業向け】 海外ITサービス利用動向調査

No.4

## 第5章

# 学生向け 「情報サービス産業のイメージ分析調査」

# 調査概要

## 調査の目的

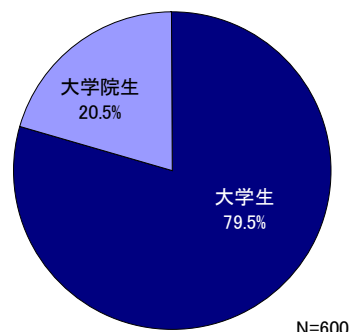
- 情報サービス・ソフトウェア産業が優秀な新卒人材を獲得する上で、就業先産業としての学生の間での“人気”は、人材の獲得に影響を与える大きな要因となっている。
- こうした状況をふまえて、本調査では、昨年度に引き続き、学生に対して、情報サービス・ソフトウェア産業に対するイメージや仕事に対する興味等を尋ねた。
- 本調査では、このようなイメージの分析により、学生が、情報サービス・ソフトウェア産業をどのようにとらえているかを把握し、この産業を、学生にとって“魅力的な”産業とするためには何をなすべきか、そのための方策について検討を行うための基礎情報とする。

## 回答者概要

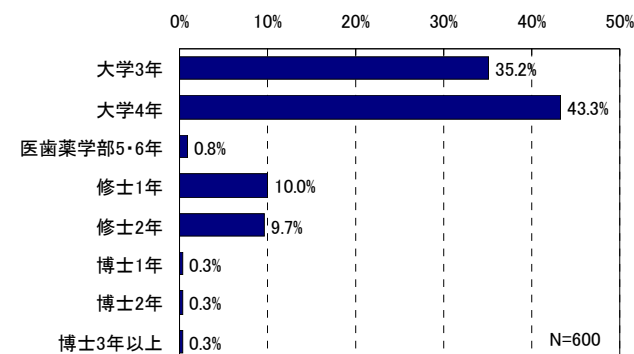
- 本調査は、大学3年生以上の学生計600名に対して実施した。
- 600名の内訳は、以下のとおり、情報系200名、情報系以外の理系200名、文系・その他200名とした。

専 攻	回答者数
情報系（情報工学・情報科学系）	200
情報系以外の理系（理学／工学／農学／医師薬学系）	200
文系・その他（人文科学／社会科学／芸術学／家政学系）	200
合 計	600

大学生と大学院生の割合



学年

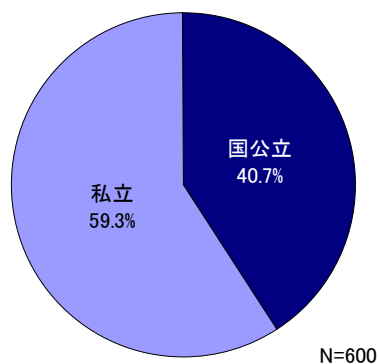


# 回答者属性

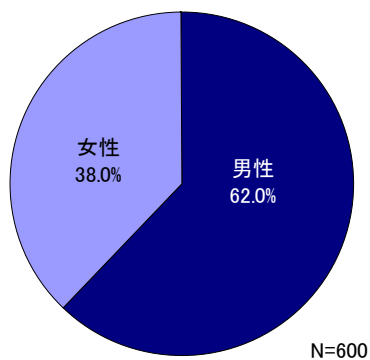
## 回答者属性

■ 回答者に関するその他の属性は、以下のとおり。

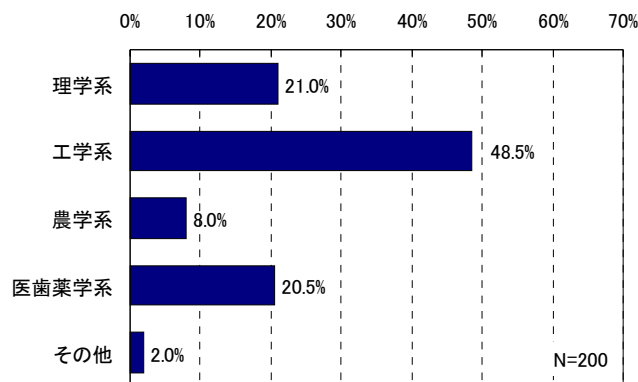
大学・大学院種類



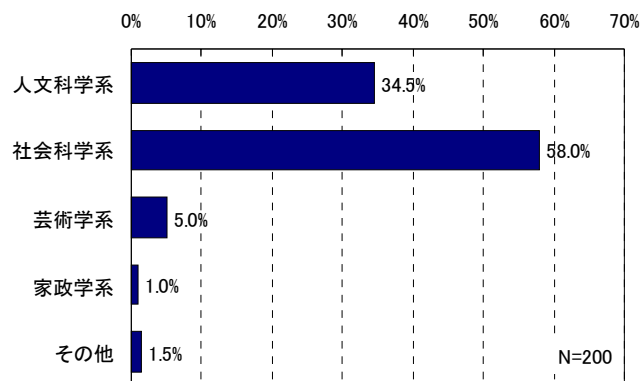
性別



理系：専攻分野

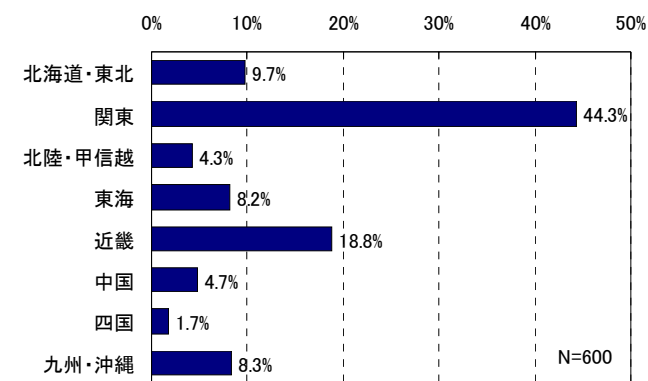


文系：専攻分野



✓ 左の「専攻分野」は、「情報系以外の理系」、「文系・その他」を選択した回答者の専攻分野を示す。

所在地

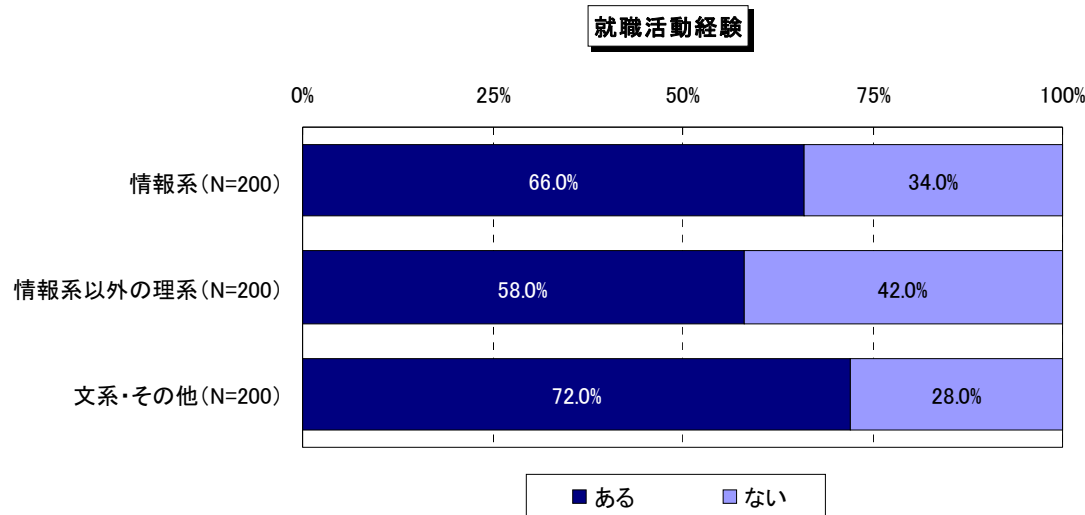
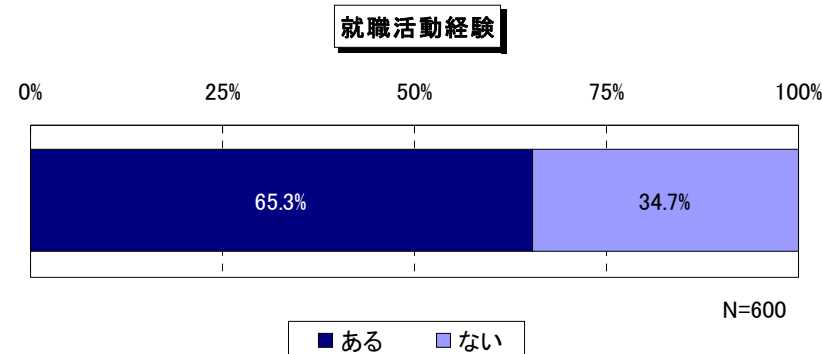




# 回答者属性 ～ 産業界の仕事に対する理解度① ～

## 回答者の就職活動経験の有無

- 今回の調査では、学生に対して、産業や仕事のイメージを尋ねる前に、学生が、どの程度、産業界の仕事について具体的に理解しているのか、その理解度を尋ねるために、就職活動経験の有無を尋ねた。
- 右図によれば、今回の調査対象となった学生全体の6割以上が、「就職活動経験を少しでも経験したことがあるか」という問いに対して、「ある」と回答している。
- これより、今回の回答者の多くは、就職活動を経て、ある程度、産業や仕事に対して具体的なイメージを持っていると考えられる。
- 専攻別では、「文系・その他」の学生が、最も就職活動を経験した割合が高くなっている。

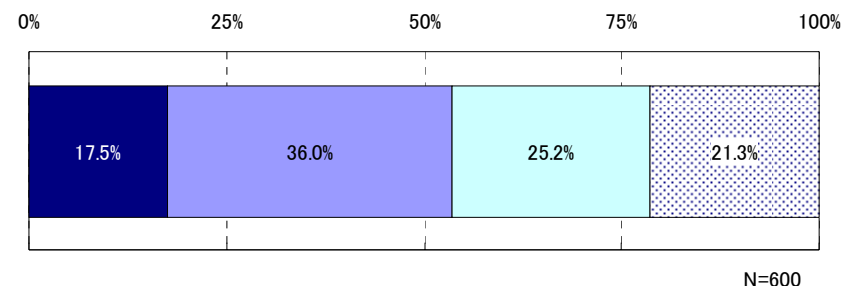


# IT関連の仕事に対する学生の志向

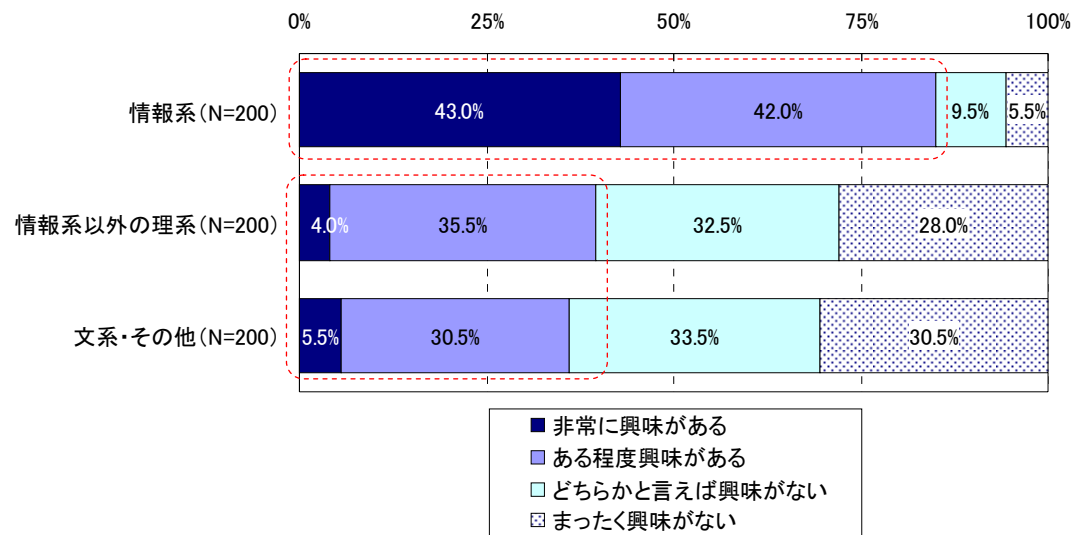
## ITに関する仕事への興味

- ここからは、まず、学生のITに関する仕事に対する興味を尋ねた設問の結果を示す。具体的には、学生が、ITに関する仕事に対して、どの程度の興味を持っているか、また、どのような内容の仕事に興味を持っているか、などを尋ねた。
- 「ITに関する仕事」への興味については、全体の半数程度の学生が、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と回答している。
- 専攻別では、情報系の学生については、全体の8割以上が、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と回答している。
- 「情報系以外の理系」や「文系・その他」の学生については、3～4割の学生が、「非常に興味がある」「ある程度興味がある」と回答した。
- 昨年度の調査と比較すると、「情報系以外の理系」や「文系・その他」の学生のうち、「興味がある」と答えた学生の割合が、7～9%弱程度低下している。

ITに関する仕事への興味



ITに関する仕事への興味

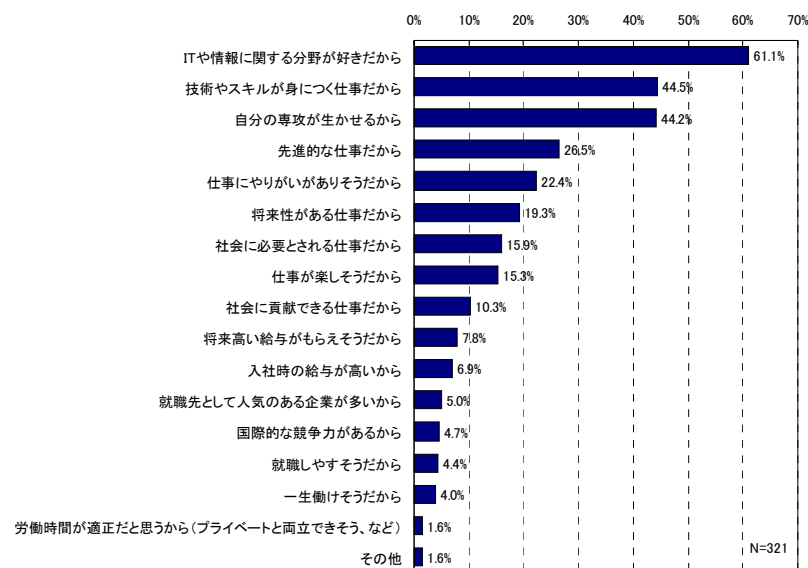


# IT関連の仕事に対する学生の志向

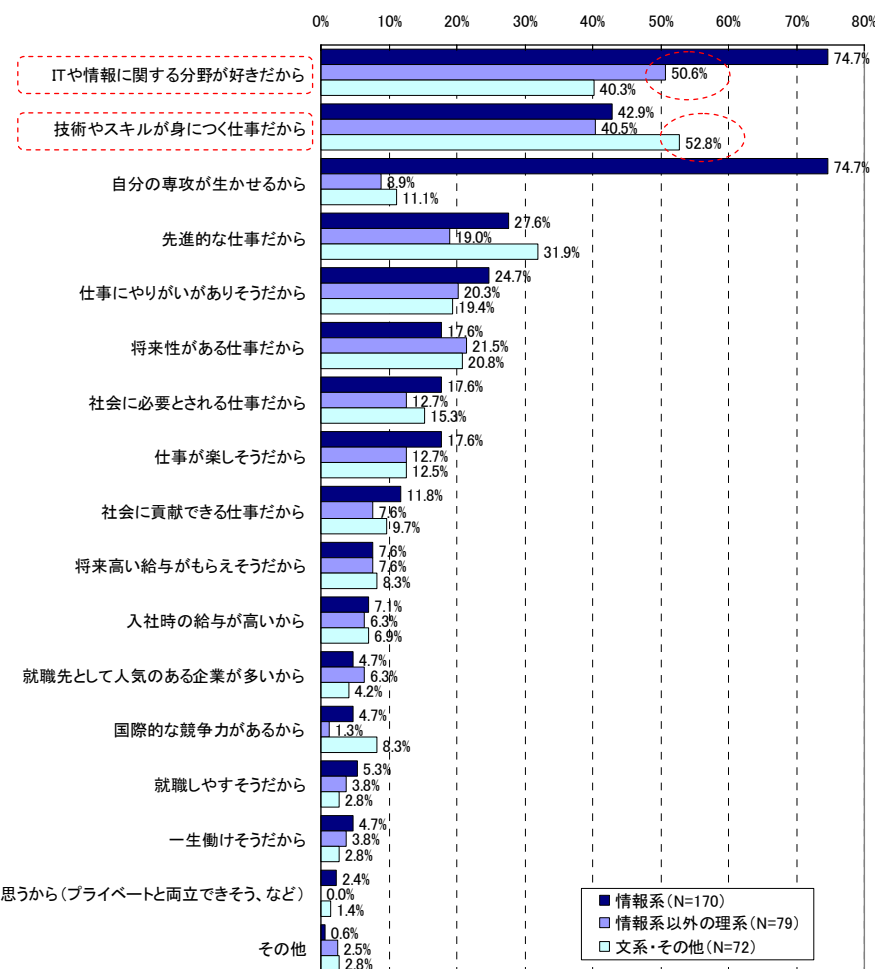
## ITに関する仕事に興味がある理由

- 前頁のITに関する仕事に興味がある理由としては、「ITや情報に関する分野が好きだから」(①)、「技術やスキルが身につく仕事だから」(②)という理由をあげる学生が多い。
- ①は理系の学生で、②は文系の学生で最も多くなっている。
- 情報系では、「自分の専攻が活かせるから」という理由をあげる学生が多い。

ITに関する仕事に興味がある理由



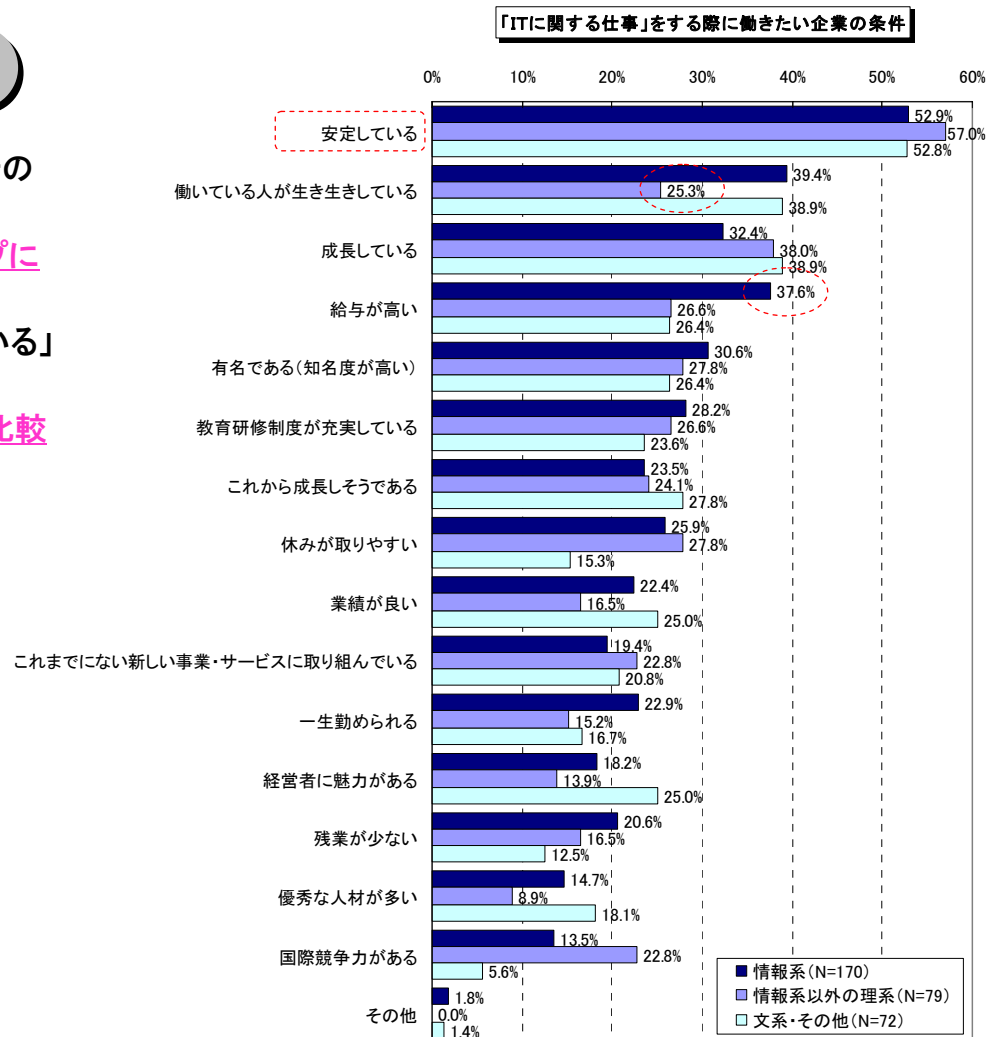
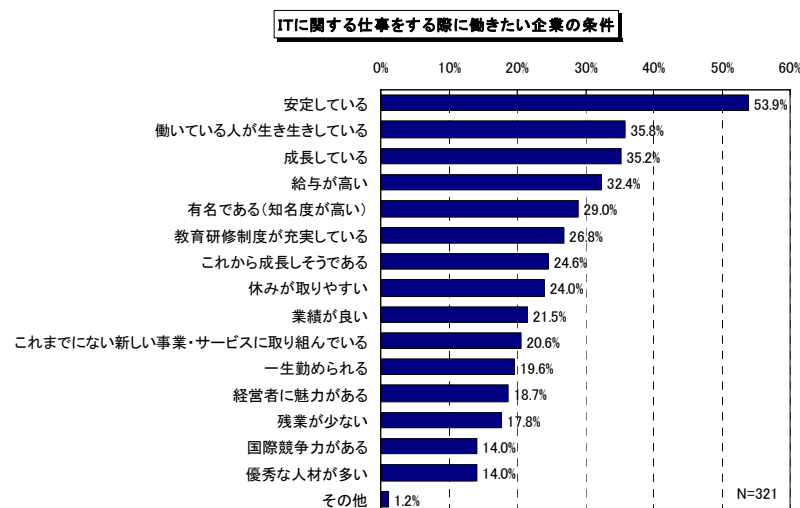
「ITに関する仕事」に興味がある理由



# IT関連の仕事に対する学生の志向

## ITに関する仕事をする際に働きたい企業の条件

- ITに関する仕事に興味を持っている学生に対しては、そのような仕事をする際に働きたい企業の条件を尋ねた。
- その結果、「安定している」との回答が、群を抜いてトップに上がった。
- 続いて、「働いている人が生き生きしている」「成長している」などの項目があげられている。
- なお、情報系の学生の回答を、他専攻の学生の回答と比較すると、少し異なる傾向がみられる。



# IT関連業界の人気とイメージ

## 産業のイメージ

- 次ページの調査結果から、「技術やスキルが身につく」や「夢がある」という項目については、「IT・情報サービス・ソフトウェア」がトップとなった。学生は、これらの点では、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業を、高く評価しているとみられる。特に、「夢がある」については、「あてはまるものはない」という回答が多い中、「IT・情報サービス・ソフトウェア」が最も健闘している。
- その他、「カッコいい」、「仕事にやりがいがある」などについても、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業は、比較的上位にあげられている。学生は、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業の良い面に対して、比較的高い評価を与えていることがわかる。
- その一方、「働いている人たちが自分の仕事に誇りをもっている」という点においては、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業は、それほど高い評価を受けていない。後述の「仕事がきつい」などの点において、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業よりも上位となっている「医療・福祉」業界は、「働いている人たちが自分の仕事に誇りをもっている」という点においても、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業を上回っており、産業に対するイメージの違いがうかがえる。
- また、「仕事の内容がわかりやすい」については、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業が、比較的下位にランクされる結果となった。ここまでの他の設問の結果も含めて、IT関連の仕事の「わかりやすさ」については、大きな課題が残されているといえる。
- さらに、産業内部では、「IT・情報サービス・ソフトウェア」に対して、「給与が低い」とのイメージがもたれがちなのではないかとの心配があるが、今回の調査結果では、「給与が低い」というイメージは、それほど強くないことが明らかになった。
- それに対して、「仕事がきつい」というイメージについては、「医療・福祉」の次に「IT・情報サービス・ソフトウェア」があげられており、この産業では“仕事が大変である”という認識が、学生の間に浸透している可能性がうかがえる。

# IT関連業界の人気とイメージ

## 産業のイメージ

右図は、様々な産業に対するイメージを尋ねた設問の結果である。今回の調査で用いた24の産業のうち、「IT・情報サービス・ソフトウェア」の順位を、網掛けで表示している。

順位	技術やスキルが身につく	
	業界	%
1	IT・情報サービス・ソフトウェア	39.0%
2	自動車・輸送機器	33.8%
3	電子・電気機器	33.5%
4	一般機械・精密機械	25.5%
5	専門職（弁護士・会計士等）	22.5%
6	医療・福祉	17.5%
7	化学・医薬品・化粧品	17.2%
8	建設・土木	15.7%
9	鉄鋼・金属・セラミックス	14.0%
10	金融・証券・保険	11.5%
11	通信	9.5%
12	調査・コンサルティング	8.7%
13	商社	5.7%
14	エネルギー（電気・ガス）	4.5%
15	広告・放送・出版	4.3%
16	農林水産業・鉱業	4.3%
17	住宅・不動産	3.8%
18	教育サービス	3.2%
19	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	3.0%
20	旅行・ホテル・レジャー	2.5%
21	官公庁・自治体・公共機関	2.3%
22	食品・飲料	2.2%
23	衣類・繊維	1.8%
24	百貨店・コンビニ	0.8%
25	あてはまるものはない	10.8%

順位	夢がある	
	業界	%
1	IT・情報サービス・ソフトウェア	21.5%
2	広告・放送・出版	16.5%
3	旅行・ホテル・レジャー	15.2%
4	自動車・輸送機器	15.0%
5	電子・電気機器	15.0%
6	化学・医薬品・化粧品	14.8%
7	教育サービス	9.2%
8	一般機械・精密機械	8.7%
9	通信	7.5%
10	医療・福祉	7.5%
11	専門職（弁護士・会計士等）	7.0%
12	商社	6.7%
13	エネルギー（電気・ガス）	5.8%
14	鉄鋼・金属・セラミックス	5.0%
15	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	4.5%
16	調査・コンサルティング	4.2%
17	金融・証券・保険	4.0%
18	官公庁・自治体・公共機関	4.0%
19	建設・土木	3.7%
20	食品・飲料	3.3%
21	衣類・繊維	3.3%
22	住宅・不動産	3.2%
23	農林水産業・鉱業	3.2%
24	百貨店・コンビニ	2.3%
25	あてはまるものはない	24.2%

順位	かっこいい	
	業界	%
1	専門職（弁護士・会計士等）	30.7%
2	IT・情報サービス・ソフトウェア	24.5%
3	商社	20.2%
4	自動車・輸送機器	17.5%
5	広告・放送・出版	16.7%
6	金融・証券・保険	15.8%
7	電子・電気機器	13.0%
8	医療・福祉	12.3%
9	調査・コンサルティング	11.7%
10	化学・医薬品・化粧品	9.3%
11	通信	7.8%
12	一般機械・精密機械	6.8%
13	旅行・ホテル・レジャー	6.3%
14	官公庁・自治体・公共機関	6.2%
15	建設・土木	5.0%
16	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	5.0%
17	鉄鋼・金属・セラミックス	3.5%
18	エネルギー（電気・ガス）	3.0%
19	住宅・不動産	2.8%
20	衣類・繊維	2.8%
21	食品・飲料	2.3%
22	百貨店・コンビニ	2.2%
23	教育サービス	2.0%
24	農林水産業・鉱業	1.3%
25	あてはまるものはない	18.3%

順位	仕事にやりがいがある	
	業界	%
1	医療・福祉	22.0%
2	専門職（弁護士・会計士等）	21.0%
3	IT・情報サービス・ソフトウェア	14.5%
4	自動車・輸送機器	13.8%
5	広告・放送・出版	12.7%
6	電子・電気機器	11.3%
7	化学・医薬品・化粧品	9.5%
8	調査・コンサルティング	8.8%
9	旅行・ホテル・レジャー	8.7%
10	商社	8.7%
11	教育サービス	8.5%
12	官公庁・自治体・公共機関	8.2%
13	金融・証券・保険	7.7%
14	一般機械・精密機械	7.2%
15	エネルギー（電気・ガス）	6.7%
16	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	5.8%
17	建設・土木	4.8%
18	鉄鋼・金属・セラミックス	4.5%
19	通信	4.5%
20	食品・飲料	4.3%
21	百貨店・コンビニ	4.3%
22	住宅・不動産	3.0%
23	衣類・繊維	2.8%
24	農林水産業・鉱業	2.7%
25	あてはまるものはない	19.7%

順位	働いている人たちが自分の仕事に誇りをもっている	
	業界	%
1	専門職（弁護士・会計士等）	27.7%
2	医療・福祉	21.3%
3	自動車・輸送機器	16.3%
4	電子・電気機器	10.0%
5	広告・放送・出版	9.5%
6	商社	9.5%
7	官公庁・自治体・公共機関	9.0%
8	金融・証券・保険	8.8%
9	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	8.2%
10	一般機械・精密機械	7.7%
11	化学・医薬品・化粧品	7.7%
12	IT・情報サービス・ソフトウェア	7.2%
13	建設・土木	6.5%
14	エネルギー（電気・ガス）	6.3%
15	鉄鋼・金属・セラミックス	5.8%
16	調査・コンサルティング	5.5%
17	教育サービス	4.5%
18	旅行・ホテル・レジャー	3.8%
19	農林水産業・鉱業	3.8%
20	食品・飲料	2.8%
21	通信	2.5%
22	衣類・繊維	2.5%
23	百貨店・コンビニ	1.7%
24	住宅・不動産	1.3%
25	あてはまるものはない	25.8%

順位	仕事の内容が分かりやすい	
	業界	%
1	百貨店・コンビニ	25.5%
2	旅行・ホテル・レジャー	14.7%
3	自動車・輸送機器	12.3%
4	食品・飲料	12.0%
5	専門職（弁護士・会計士等）	10.5%
6	医療・福祉	10.3%
7	建設・土木	8.5%
8	広告・放送・出版	8.0%
9	エネルギー（電気・ガス）	7.7%
10	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	7.3%
11	住宅・不動産	7.2%
12	教育サービス	7.2%
13	官公庁・自治体・公共機関	6.5%
14	衣類・繊維	6.2%
15	電子・電気機器	5.2%
16	金融・証券・保険	5.0%
17	農林水産業・鉱業	4.0%
18	一般機械・精密機械	3.7%
19	商社	3.7%
20	IT・情報サービス・ソフトウェア	3.2%
21	化学・医薬品・化粧品	2.8%
22	鉄鋼・金属・セラミックス	2.3%
23	通信	2.3%
24	調査・コンサルティング	2.3%
25	あてはまるものはない	29.0%

順位	給与が低い	
	業界	%
1	百貨店・コンビニ	25.2%
2	建設・土木	17.2%
3	医療・福祉	15.0%
4	農林水産業・鉱業	14.0%
5	食品・飲料	10.2%
6	旅行・ホテル・レジャー	10.0%
7	衣類・繊維	9.7%
8	教育サービス	9.3%
9	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	8.2%
10	IT・情報サービス・ソフトウェア	8.0%
11	官公庁・自治体・公共機関	6.8%
12	一般機械・精密機械	5.7%
13	電子・電気機器	3.5%
14	鉄鋼・金属・セラミックス	3.2%
15	自動車・輸送機器	2.8%
16	住宅・不動産	2.7%
17	広告・放送・出版	2.7%
18	通信	2.3%
19	エネルギー（電気・ガス）	1.8%
20	調査・コンサルティング	1.8%
21	化学・医薬品・化粧品	1.5%
22	商社	1.5%
23	金融・証券・保険	0.8%
24	専門職（弁護士・会計士等）	0.3%
25	あてはまるものはない	22.0%

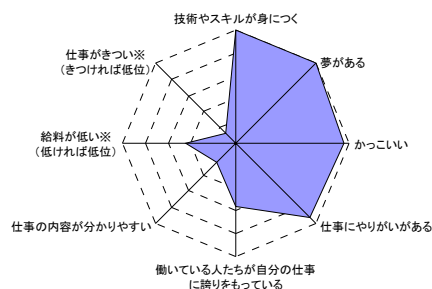
順位	仕事がついつい	
	業界	%
1	医療・福祉	35.7%
2	IT・情報サービス・ソフトウェア	30.0%
3	建設・土木	25.8%
4	金融・証券・保険	17.5%
5	広告・放送・出版	15.3%
6	商社	14.8%
7	自動車・輸送機器	13.5%
8	運輸（鉄道・空輸・陸運・海運）・倉庫	11.3%
9	専門職（弁護士・会計士等）	9.7%
10	百貨店・コンビニ	9.3%
11	旅行・ホテル・レジャー	9.0%
12	農林水産業・鉱業	7.5%
13	調査・コンサルティング	7.0%
14	教育サービス	6.3%
15	住宅・不動産	5.8%
16	一般機械・精密機械	5.7%
17	電子・電気機器	5.2%
18	鉄鋼・金属・セラミックス	5.2%
19	官公庁・自治体・公共機関	4.5%
20	通信	3.8%
21	化学・医薬品・化粧品	3.5%
22	食品・飲料	3.3%
23	エネルギー（電気・ガス）	2.7%
24	衣類・繊維	1.2%
25	あてはまるものはない	12.3%

# IT関連業界の人気とイメージ

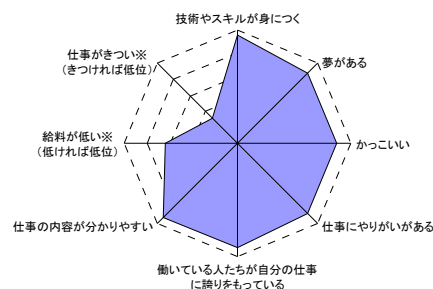
## 産業のイメージ

- 下図は、前頁の調査結果を代表的な産業別に比較した分析結果である。
- 産業別に比較すると、「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業は、良いイメージにおいて非常に高く評価されている一方、「仕事がきつい」という点や「仕事の内容がわかりやすい」などの点について、順位が低くなっていることが俯瞰できる。
- 「IT・情報サービス・ソフトウェア」産業のイメージ全体を、さらに向上させるためには、今後、仕事の内容や仕事の誇りを、産業外部にも、積極的に伝えていくことが求められる。

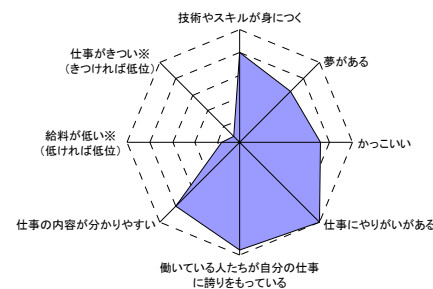
IT・情報サービス・ソフトウェア



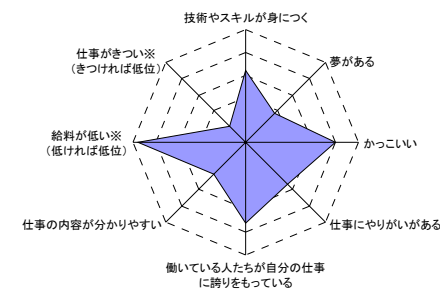
自動車・輸送機器



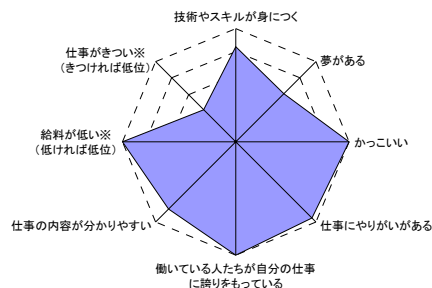
医療・福祉



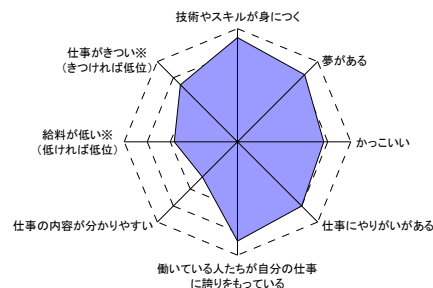
金融・証券・保険



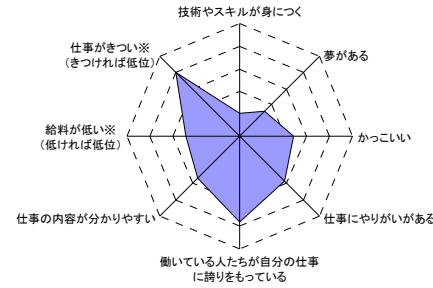
専門職(弁護士・会計士等)



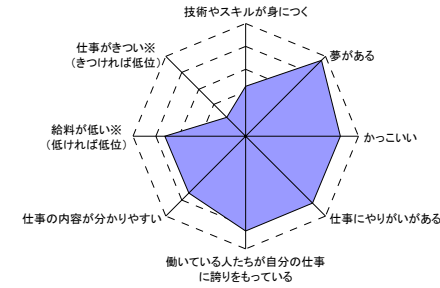
電子・電気機器



官公庁・自治体・公共機関



広告・放送・出版

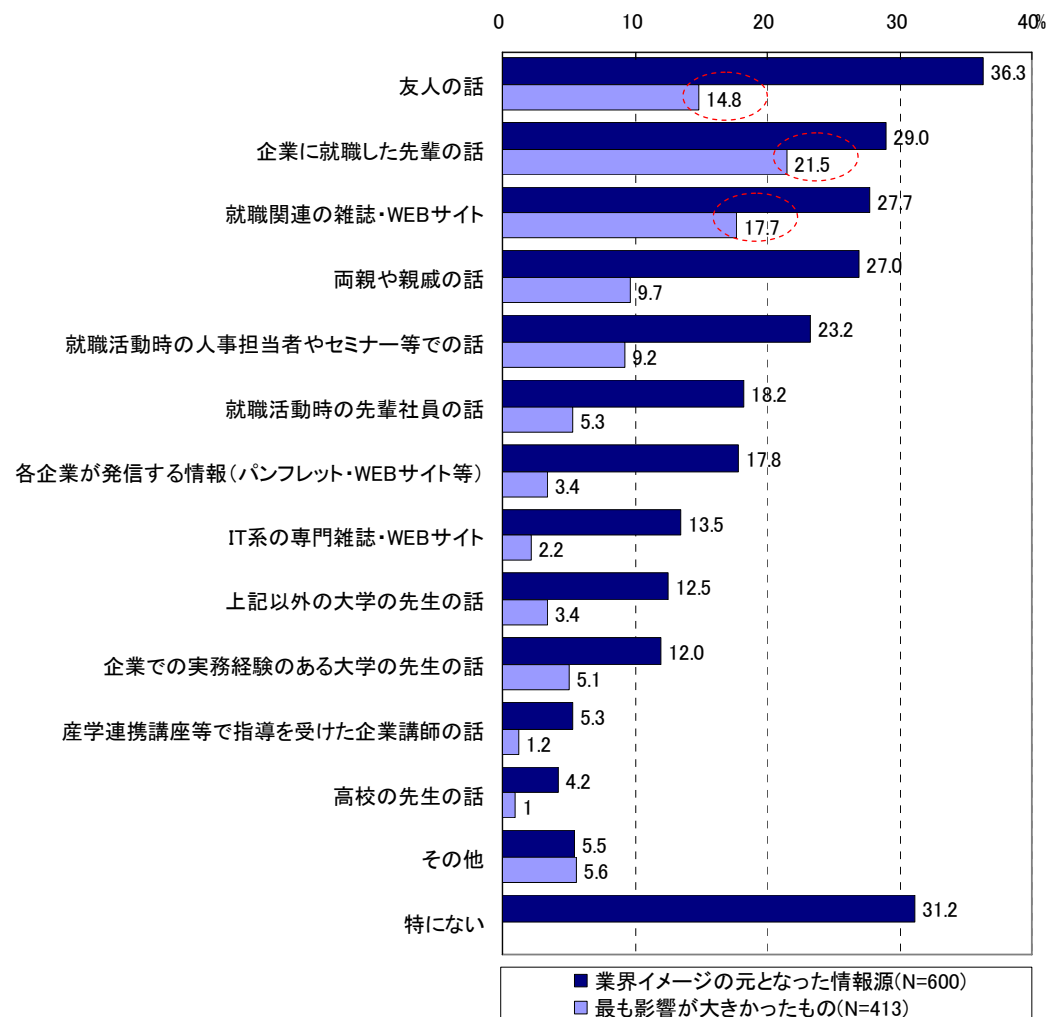




# 業界イメージを形成する学生の情報源

## 業界イメージの元となっている情報源

- 今年度の調査では、初めての試みとして、学生の業界イメージは、どのような情報源から形成されているのかを尋ねた。
- その結果、情報源として回答が多いものは「友人の話」であるが、「最も影響が大きかったもの」としては、「企業に就職した先輩の話」が最上位に上げられた。続いて、「就職関連の雑誌・WEBサイト」の回答が多い。
- 実際に産業で働く先輩社員や就職関連の雑誌・WEBサイトからの情報は、学生が業界のイメージを形成する上で、非常に大きな影響力を持っていることが分かる。





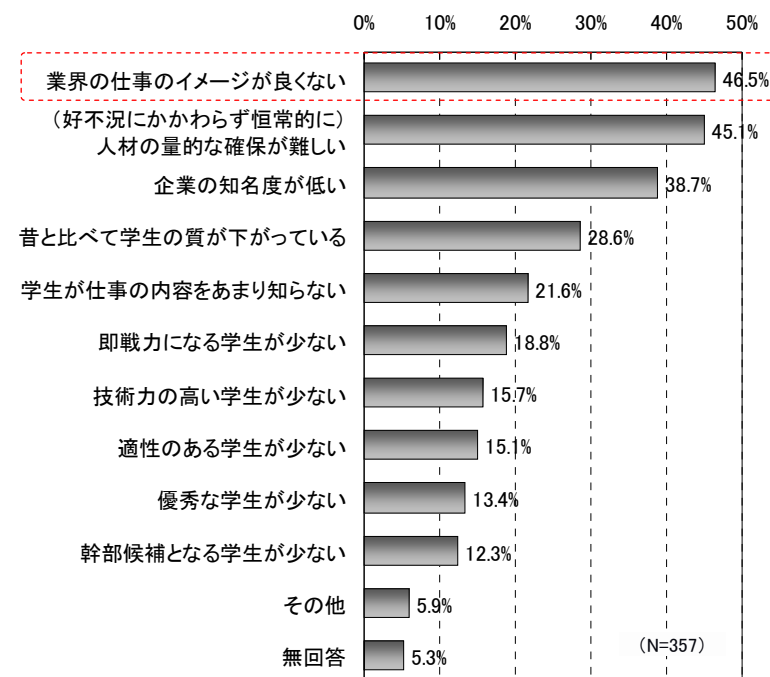
## 第6章

# 社会人向け 「他産業との就業満足度比較調査」

# 調査概要

## 調査の目的

- 近年、過去と比較して、学生の就業先としてのIT関連産業の人気の低下しているとの懸念が台頭している。
- また、昨年度の予備調査では、新卒採用に関して企業側が感じている課題として、「業界の仕事のイメージが良くない」という点が、最上位にあげられた(右図)。
- さらに、最近では、IT業界は、「3K産業」であるなどと言われることもあり、産業イメージのさらなる低下が危惧されている。
- 本調査では、これらの議論の背景には、産業における人材の就業満足度の問題が隠されているのではないかと、その仮説をもとに、その検証を目的としたWEBアンケート調査を実施した。すなわち、**“IT産業の仕事のイメージの低下や3K論の背景には、産業で働く人材の就業満足度の低さがあるのではないかと”とらえ、その実態を把握するための調査として、本調査を位置づけた。**
- なお、IT産業の就業満足度の高さを把握するためには、比較対象として、他産業における就業満足度を把握することが必要となる。そのため、本調査は、他産業で働く社会人も調査対象に含めて実施した。
- 調査対象となった回答者の属性の詳細については、次頁に詳述する。



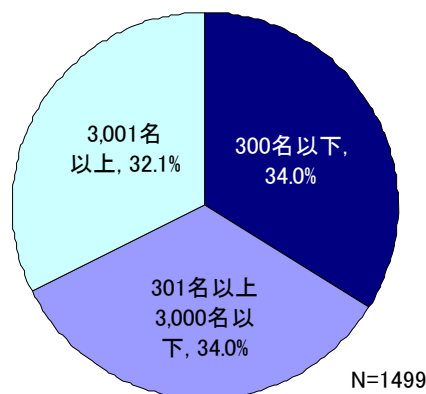
H19「IT人材市場動向予備調査」  
IT企業向けアンケート調査結果から

# 回答者属性①

勤務先業種別：回答者数

業種	回答者数
IT(ソフトウェア)関連	300
自動車・自動車部品／機械・機械部品	300
銀行・証券・保険・その他金融	300
建設／土木・住宅・不動産／運輸・倉庫	300
食品・フードサービス	149
商社／マスコミ・広告／ホテル・旅行	150
合 計	1499

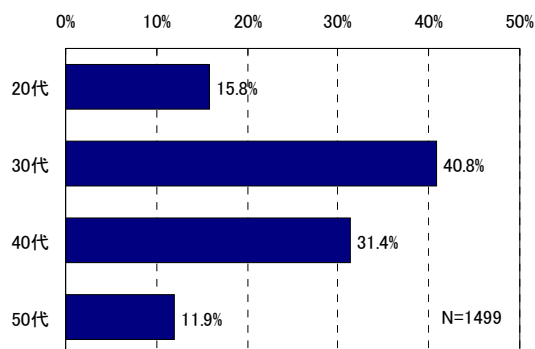
勤務先企業の従業員数



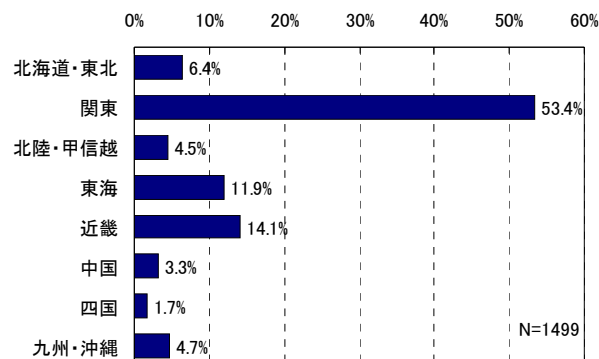
- 本調査は、左表のとおり、IT(ソフトウェア)関連産業に加えて、その他の代表的な5つの産業に勤める社会人を対象として実施した。
- 左下図のとおり、各産業とも、企業の従業員規模の差が回答に影響を与えないよう、「300名以下」「301名以上3,000名以下」「3,001名以上」の企業従事者が、各産業について、それぞれおおよそ3分の1程度になるように、回答を収集した。
- なお、本調査の「IT(ソフトウェア)関連産業」に含めた主な業種は、以下のとおり。
  - ・ システムインテグレーション(SI)、ソフトウェア開発
  - ・ 情報処理サービス
  - ・ ITコンサルティング
  - ・ 電子デバイス・コンピュータ・周辺機器製造  
(ソフトウェア系技術者のみ)
  - ・ 通信サービス(ソフトウェア系技術者のみ)
- また、次頁のとおり、今回の回答者は、大学卒業以上の社会人とした。

## 回答者属性②

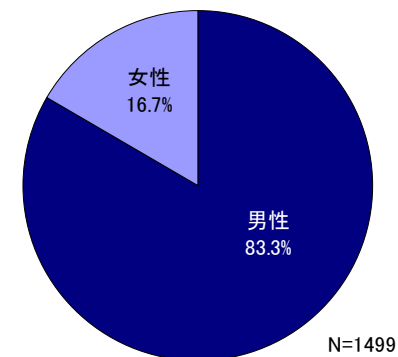
年齢分布



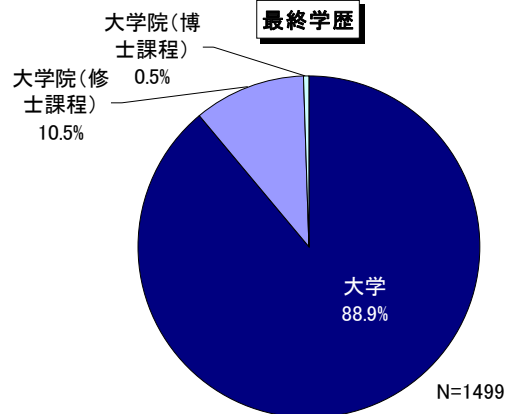
回答者住地域



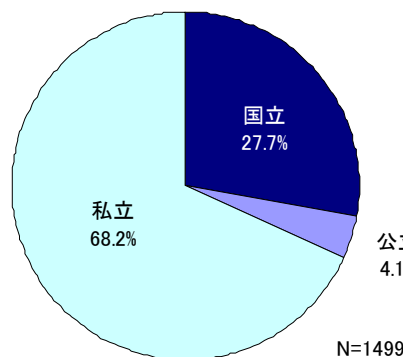
性別



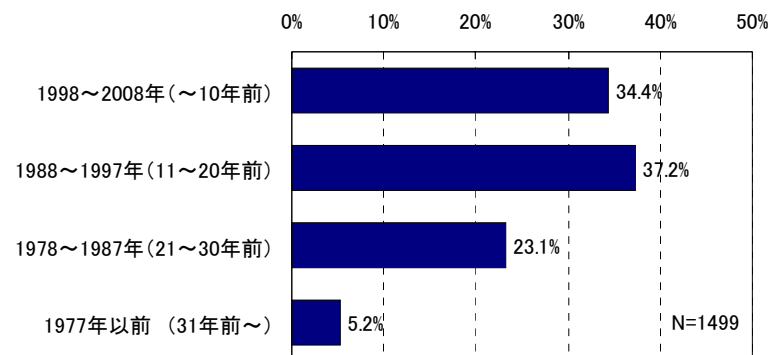
最終学歴



卒業大学・大学院の種類



卒業年

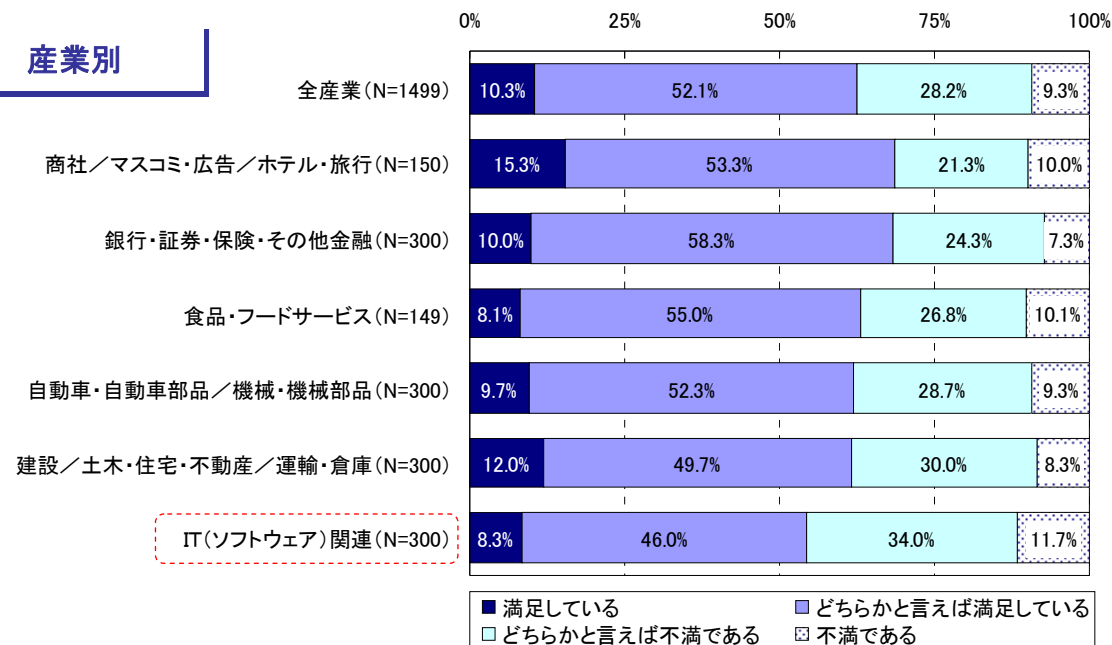


# 産業別の就業満足度比較①

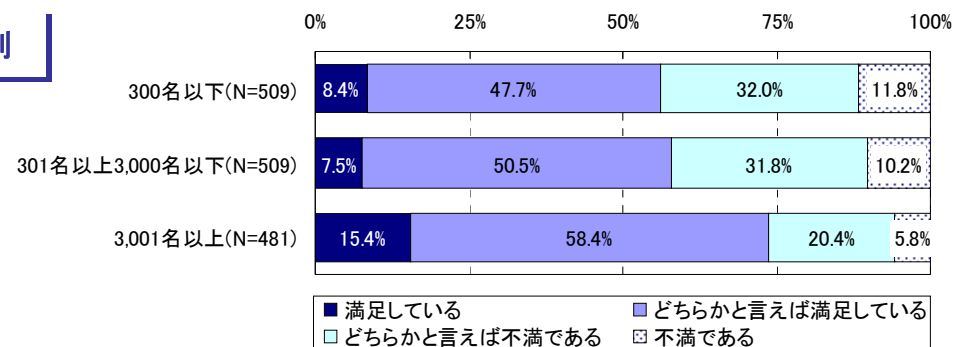
## 現在の仕事に対する満足度

- 本調査の主題である就業満足度については、「あなたは、現在の仕事に満足していますか」という形で、直接的に尋ねた結果、右図のような結果が得られた。
- IT関連産業については、現在の仕事に対する満足度が、他産業と比較して最も低いという結果となった。
- 特に、「不満である」という回答の割合は、唯一、1割を超えている。「どちらかを言えば不満である」を合わせた値も、全産業の中で、唯一、4割を越え、半数近くまで達している。
- この結果から、IT関連産業においては、他産業よりも、仕事に対する満足度が低めであることが示されたと言える。

### 産業別



### 従業員規模別

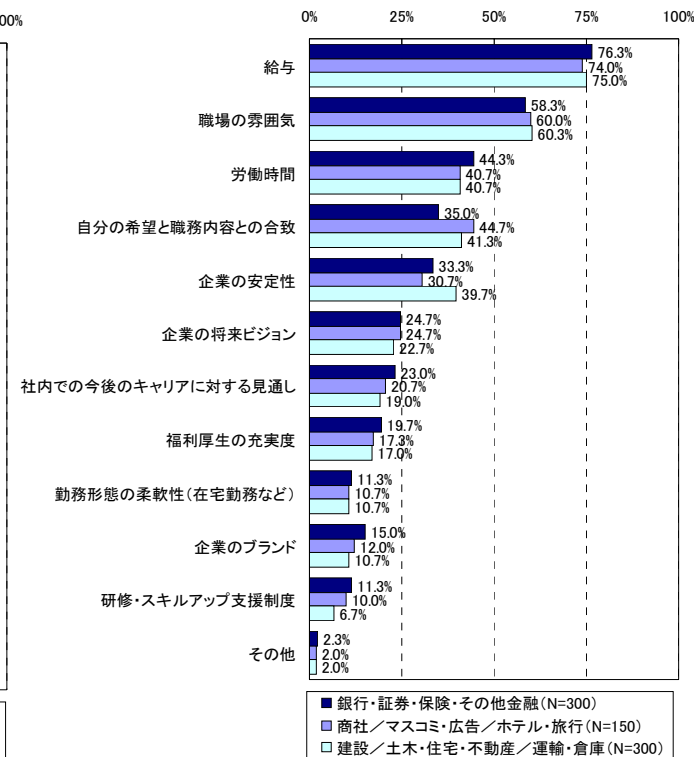
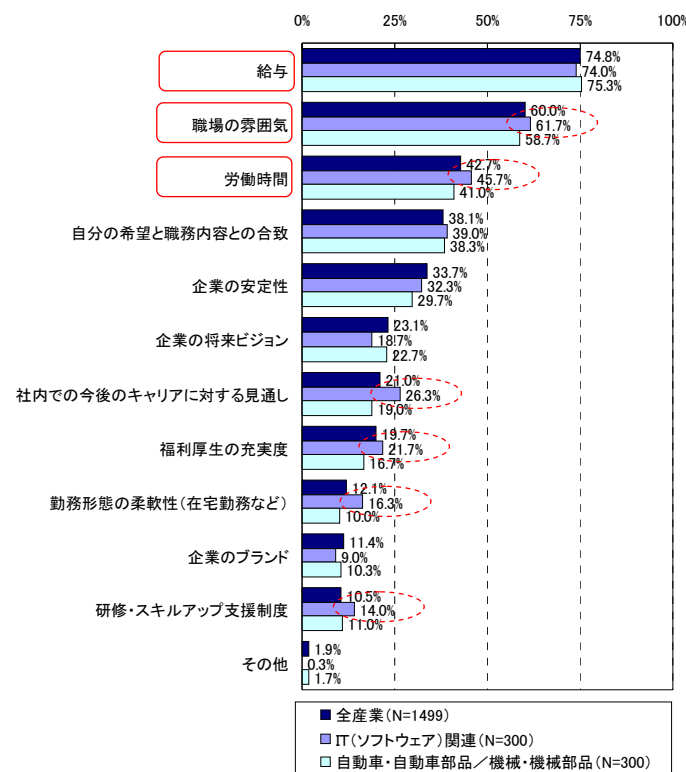


# 就業満足度に影響を与える要因

## 仕事の満足度に影響を与える要因

- 今回の調査では、仕事の満足度に影響を与える要因(最大5つまで)についても尋ねた。
- 仕事の満足度に影響を与える大きな要因は、最上位から順に、「給与」「職場の雰囲気」「労働時間」となっている。
- IT関連産業に従事する社会人の回答をみると、特に、「職場の雰囲気」や「労働時間」、「社内での今後のキャリアに対する見通し」などと回答した割合がやや高めになっている。
- また、「勤務形態の柔軟性」や「研修・スキルアップ支援制度」などについても、IT関連産業従事者の回答が多い。

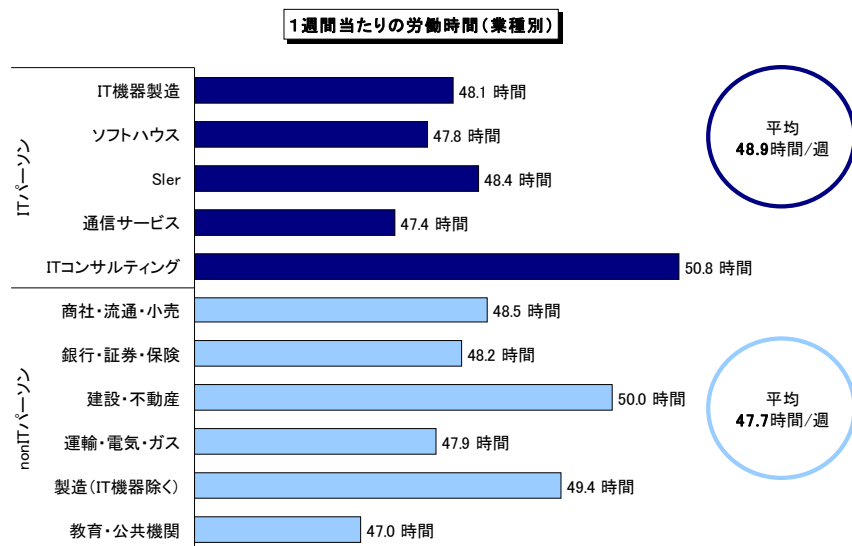
## 産業別



# 就業満足度に影響を与える要因 ～実態との乖離～

## 労働時間(実態)

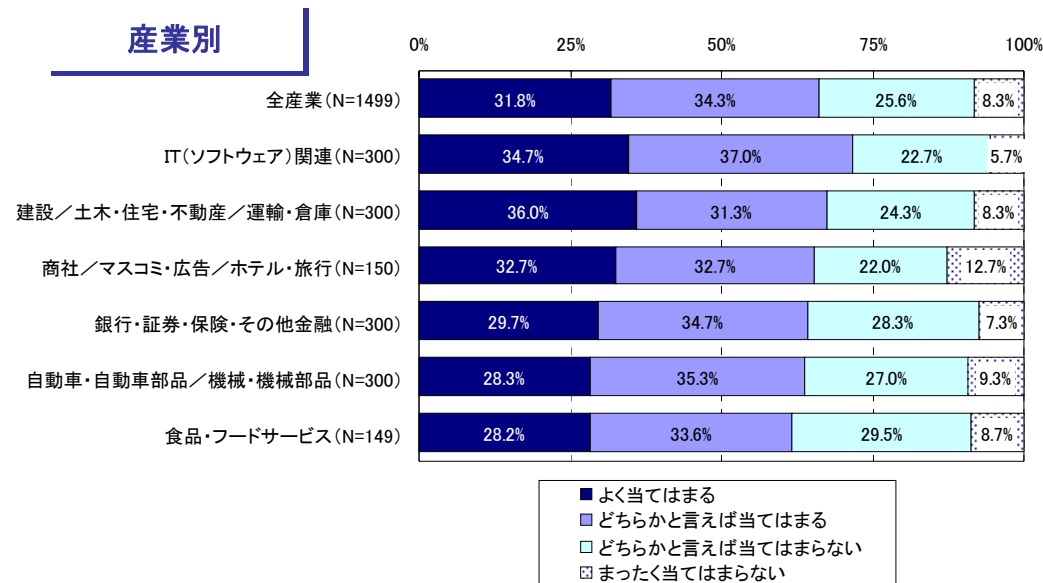
- 左図では、就業満足度に影響を与える要因について、その実態の把握を試みたデータの一例を示す。
- このデータによると労働時間は、他業界とほぼ同じという調査結果が出されている。IT関連業界のみが突出して労働時間が多いわけではない。



日経コンピュータ 2008年9月22日号  
「ビジネスパーソン3300人大調査」

## 「残業が多い」(イメージ調査結果)

- 前頁において、「就業満足度に影響を与える要因」としてあげられた「労働時間」や「給与」に対する、産業従事者の感じ方を示す。
- 「残業が多い」について、自分の仕事に当てはまるかどうかを尋ねた設問では、IT関連産業の従事者が、もっとも高い割合で「(どちらかと言えば/よく)当てはまる」と回答している。
- 各種統計調査等では、労働時間の長さは、他産業と変わらないことが把握されているが、IT関連産業に従事する人材は、“他産業よりも残業が多い”と感じる傾向にある。

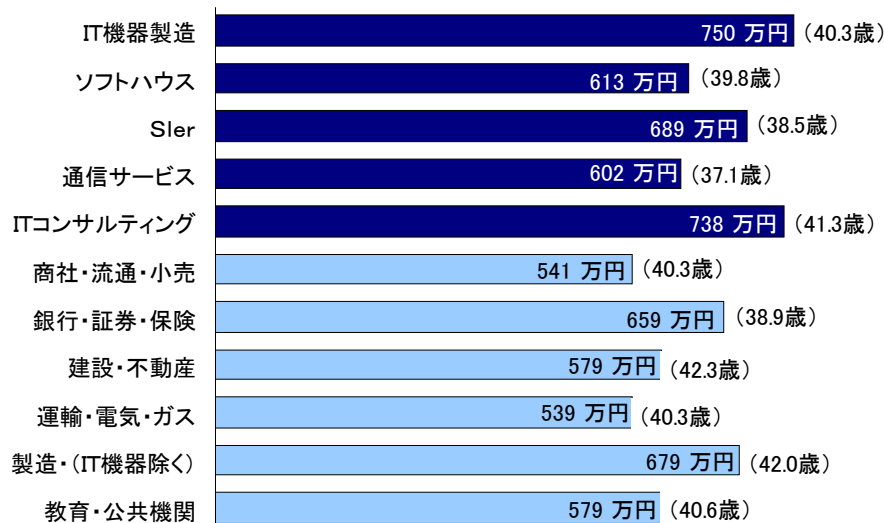


# 就業満足度に影響を与える要因 ～実態との乖離～

## 給与水準(実態)

- 左図では、給与水準に関しても、他産業との比較を行ったデータの一例を示す。
- このデータによると、IT業界の給与水準は、他産業と同様もしくは、やや高めであることが示されている。

業種別の平均年収(平均年齢)

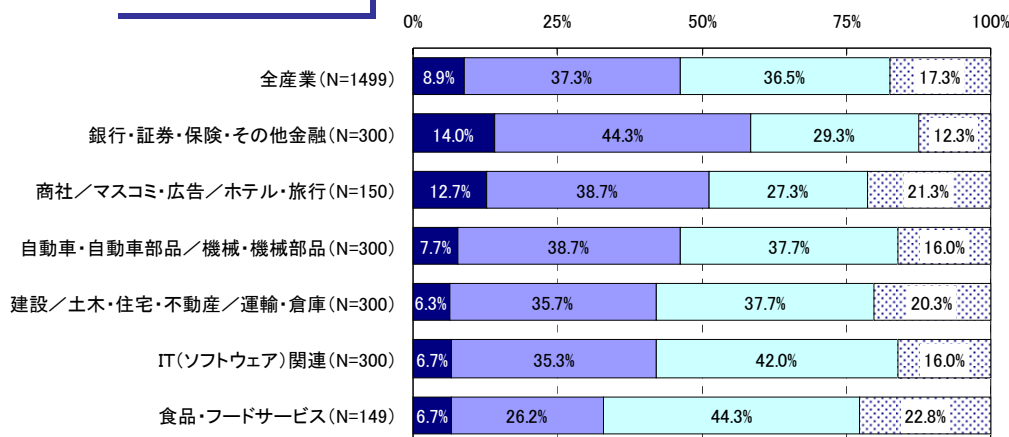


日経コンピュータ 2008年9月22日号  
「ビジネスパーソン3300人大調査」

## 「他業種と比べて給与が高いと思うか」(イメージ調査結果)

- 右図の調査結果では、IT関連産業は、全6産業中、下から2番目となっている。しかし、左図のように、IT関連産業は、全産業の中では、平均よりも給与水準が高い産業であることを示す調査結果は多い。
- これをふまえると、産業に従事する人材の認識は、実態と乖離が生じている。つまり、IT関連産業に従事する人材は、現実を、実態よりもネガティブに捉えている傾向がみられると言える。

産業別



■ よく当てはまる  
 ■ どちらかと言えば当てはまる  
 □ どちらかと言えば当てはまらない  
 ▨ まったく当てはまらない



# 「IT人材白書2009」 出版について

## 書籍タイトル

『IT人材白書2009』

## 内容

- IT人材市場動向調査全調査の分析結果が掲載。
- 分析に基づいたIPAの提言も併せて掲載。
- 国、民間企業、経営者、担当者を問わず、IT人材の育成を考える上での基礎資料として活用可。
- 白書全文のPDFを格納したCD-ROMを綴じ込み。

## 出版時期

2009年5月予定

## 販売場所

各書店にて販売

## 目次(仮)

### 第1章 調査概要

1. 背景と目的
2. 調査概要
3. 実施体制
4. 調査全体の総括と施策の方向性

### 第2章 IT人材動向調査【企業編】 ～企業のIT人材動向に関する調査・分析～

1. IT人材動向調査(IT企業向け)
2. IT人材動向調査(ユーザー企業向け)
3. 調査総括

### 第3章 IT人材動向調査【教育機関編】

1. 情報系学生・教育動向調査(教育機関向け)
2. 情報専門学科のカリキュラム評価(卒業生向け)
3. 調査総括

### 第4章 IT関連産業の人気分析調査

1. 情報サービス産業のイメージ分析調査)
2. 他産業との就業満足度比較分析(IT技術者向け)
3. 調査総括

### 第5章 オフショア動向調査 ～ オフショア開発の動向に関する調査・分析 ～

1. オフショア動向調査(IT企業向け)
2. 海外ITサービス利用動向調査(ユーザー企業向け)
3. 調査総括